



2018

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム (JIYD)

年次報告書

Japan Initiative for Youth Development
Annual Report 2018



特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
Japan Initiative for Youth Development

〒108-0074 東京都港区高輪4-10-63-302
TEL: 03-3440-3373 FAX: 03-3440-4447
E-mail: info@jiyd.org URL: <http://www.jiyd.org>

発行者 馬淵 英晃
発行所 特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム
発行日 2019年12月1日



理事長 野村 彰男
2019年11月吉日

理事長あいさつ

もっと豊かに、もっと大量に、もっと速く、と欲望の赴くままに開発・発展をとげてきた人類のありように、地球が怒りのこぶしを振り上げているかのような自然災害が、日本をはじめ世界各地で大きな被害をもたらしています。被災された地域のライオンズクラブの皆さま、学校やJIYD支援者の皆さまには、心からお見舞い申し上げます。

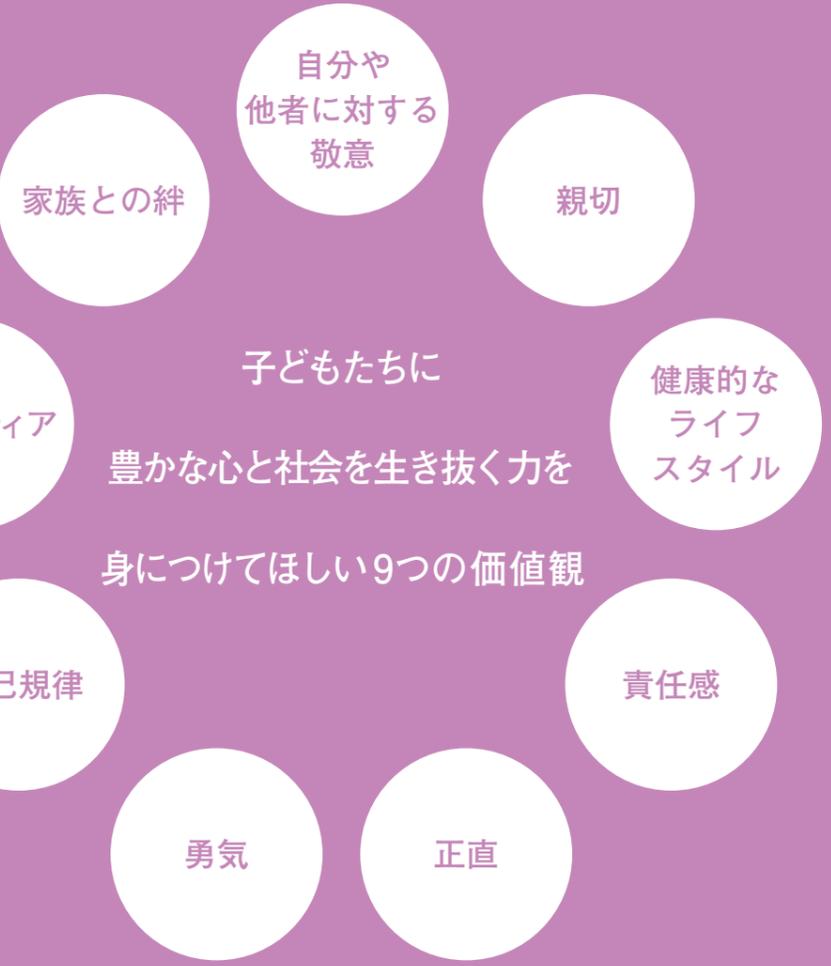
いま国連は世界中の政府や民間と協力して、こうした異常気象の問題、人権や格差の問題、子どもの貧困や教育の問題など「17の課題」の克服を目指して全力を挙げています。そんな中でスウェーデンのグレタ・トゥーンベリという16歳の女子高校生が、気候変動の危機に真剣に向き合わない政治家や大人たちの目を覚まそうと立ち上がり、世界各国でこれに呼応する高校生の活動が展開されています。よい教育で自立した精神を育てれば、子どもでも世界を動かせる事例です。ライオンズクラブの皆さまと共に、子どものコミュニケーション能力や社会性を高め、自立を促すライフスキル教育を推進する私たちにとっては、活動の背中を押される思いのするエピソードでした。

2018年度の「年次報告書」が出来上がりましたのでお届けいたします。ワークショップの開催数は合計106回、修了者も約2,400人になりました。また、学校や教育委員会が希望する研修テーマを取り入れることや、新しい開催形式の開発など、今日の教育

的な課題・ニーズや教育現場の状況を踏まえたより効果的なワークショップ開催に向けた準備にも取り組んでいます。

このほか日本財団の「子どもの貧困対策プロジェクト」に参画して「第三の居場所」づくりにライフスキル学習を導入する支援を18年度も行いました。また、府中市で「創造力教室」と名付け、放課後、約10人の子どもたちを集めライフスキル教育を実践する取り組みも進めました。講師役はJIYDのスタッフが引き受け、「安心安全な環境」の中で、子どもたちの自主性を尊重し、だれもが役割を持つ形で活動して、参観した保護者も巻き込んでの、気づきと学びの教室となっています。

そのほかライオンズクラブ333-E地区（茨城県）各地で広がる活動の詳細など盛りだくさんですが、ご一読によって、私どもの活動に一層のご理解、ご支援をいただければ幸いです。



9つの価値観を育む「ライフスキル教育」を子どもたちに届けよう
私たちは「Lions Quest ライフスキル教育プログラム」の普及活動に取り組んでいます

FOCUS 2015～（今、注力すること）

プログラムの継続的な実施を促進するために

- ① 多様な教育現場に対応する運営方法づくり
教育現場のニーズや社会の実情にあわせ、ワークショップやフォローアップのさまざまな開催方法を提案する
- ② 実践者や協力者のネットワーク構築
プログラムの実践者や支援者が情報共有・意見交換する場を拡大する
- ③ 普及活動の継続・拡大に有効な情報公開や広報活動
普及展開の例示や実践事例などの広報ツールを定期的に提供する

*1999年にライオンズクエストプログラムを日本に導入して以来、普及活動の基盤整備・全国拡大を経て、2010年以降は「深化」を大きなテーマとしてきました。2014年度までのFOCUS（注力すること）として、授業実施率の向上、評価事業、教材開発の3点を掲げてきました。評価事業では、2010年から3年間をかけ、実践校でのプログラムの効果を測るプログラム評価が終了し、教材開発では、それまでの「思春期版」に加えて2013年7月には「小学生版」、2017年7月には「幼稚園／保育所（園）版」を開発・導入しました。

県内に広がるライオンズクエスト

こんにちは！皆様お元気ですか。333-E地区(茨城県)ライオンズクエスト・薬物乱用防止委員長の玉木です。ライオンズクラブメンバーの中には、ライオンズクエストのことがわからず、学校に行き何から説明してよいかお困りの方もいると思います。そんなとき、先生方には、「このワークショップを受けると先生が変わり、生徒が変わり、学校が変わります！」と伝えてください。その次は、地区委員に相談してください。そして、委員長にも相談してください。ワークショップを受けた先生は、素晴らしい研修会だったと感謝してくれるでしょう。自信をもって勧めてください。茨城県では、夏休み期間中に、約10回のワークショップを計画しています。ライオンズクラブメンバー皆さんの協力なしには進められません。ライオンズクラブの仲間

ライオンズクラブ国際協会333-E地区(茨城県)
2018-2019年度 ライオンズクエスト・薬物乱用防止委員長 玉木 正雄

2018年に開催したワークショップの
関係者みなさまにコメントをいただきました！

作り上げる授業の大切さ

常陸太田市立世矢中学校 渡部 美香

2日間のライフスキル研修を通して、たくさんのことを学びました。本校だけでなく、小学校や高等学校といった様々な校種の先生方と交流できたことも良かったです。模擬授業をみんなで作り上げる研修では、同僚との連携の大切さや授業展開の改善などの参考になりました。今後、この研修で学んだことを学級経営や教科指導に生かしていきたいと思っています。



講師の先生の楽しい話術

水戸市立内原小学校 額賀 久美子



実践で使える様々な活動のおかげで、ライフスキルの良さをたくさん知ることができた2日間でした。後日、実際に「相手の良さを見つけ、認め合う」スキルの授業を行いました。「どう感じたか」「どう思ったか」を伝えあうことを大切に行った授業は、子どもたちの笑顔があふれる時間となりました。これからも学んだことを授業に生かし、互いを認め合える良い集団を作っていきたいと思っています。

楽しく教える事が出来るカリキュラム

神栖ライオンズクラブ 嶋 展道

市内23校の全ての小中学校より参加者をいただき、今回2回目の開催となりました。参加された先生方は、

終始楽しく2日間の研修を終えました。参加者が系統的に学び、子どもたちに楽しく教える事が出来るカリキュラムは本当に素晴らしいと思います。青少年の健全な成長へ“ライフスキル”の研修を毎年でも開催したいと思います。



合同ワークショップ

潮来ライオンズクラブ

潮来ライオンズクラブとしてはクラブ事業として3年目で、行方ライオンズクラブ、美浦ライオンズクラブの3クラブの合同事業としてワークショップを開催しました。単独で開催するよりも参加者が多くなり、充実したワークショップとなりました。今後は参加した学校や各教育委員会に働きかけて、プログラム導入を推進していきたいと考えます。



小中一貫校での実施

輝翔学園(つくば市小中一貫校) 谷部南小学校 室町 正雄(校長)

12月末のお忙しい時期に、ライフスキル研修の講師をしていただいた北山先生、そしてこの研修の場を提供して下さったライオンズクラブの皆様に感謝申し上げます。私は、教諭の皆さんと同じように2日間の研修に参加しました。まず、北山先生のライフスキルについてのわかりやすい説明と実際に体験しながら行う研修

で、ライフスキルの基本的な内容をしっかりと理解することができました。また、随所の参加者全員でのゲームを通して、身体を動かしながら体験することで、楽しみながら研修に参加できました。研修では、いくつかのグループに分かれ、全員で役割分担をし、協力して課題を解決していきました。そしてライフスキルの授業を行えば、友達の意見を尊重し、仲良く協力して課題解決を図ろうとする姿勢が自然と育っていくと感じました。今後、学校全体でライフスキルの内容を特別活動の年間計画に取り入れ、集団作り、友達作りに生かしていきたいと思っています。本当に素晴らしい研修をありがとうございました。

谷部南小学校 佐々木 勇輔

2日間の研修に参加させていただき、様々な活動を経験する中で、参加された学園内の先生方との交流を深めることができたことが一番の成果だと感じています。グループで考え、まとめ、発表するプロセスを何度も経験し、その度に、より建設的で内容の濃い話し合いになっていきました。このような経験を今の小中学生にも味あわせることが、仲間と豊かに関わったり、人間関係を形成したりするのにとても有効であると実感できました。さらに充実した活動にするためには、ファシリテーターとしての担任の役割が重要になるので、これからも研修を深めていきたいです。

谷部南小学校 市原 あゆみ(養護教諭)

2日間の研修に参加し、実際にライフスキル学習を体験することで、基礎理念やその効果について学ぶことができました。実際に指導に生かすにはもう少し勉強が必要だと思いますが、様々な場でライフスキル教育の発想や指導方法を取り入れていきたいです。

谷部中学校 奥野 涼子

私は前任校で、ライオンズクエストの研修を受けたことがあります。主な考え方や、柱となる内容は同様でしたが、今回の研修では、さらに多くの種類のゲームや活動を知ることができました。また、このプログラムに対する理解が、さらに深まったと思います。講師の先生に教えていただく際に生徒役になり、実際にその授業を受けてみる、という講義形式は、普段忘れがちな生徒自身の感覚を思い出させ、一つ一つの手立ての大切さをより実感することができました。



谷田部中学校 近藤 友美

研修では「ライフスキル」とは何かを講師の先生のお話、グループ活動、模擬授業を通して学ぶことができました。特に印象に残っているのは生徒役、先生役を担って行った模擬授業です。授業やクラスづくりについて多くの先生方と経験やアイデアを提供し合い、学校でどのように活用できるかと考えることで、実践力を高める良い機会となりました。2日間の集中研修で他校種の先生方とも関わる機会をもち、とても良い経験となりました。

谷田部中学校 吉原 真澄

ライオンズクエスト研修に参加して、実際に自分たちで活動することで生徒側の緊張感やグループ活動の楽しさを体験できました。特に「谷底から頂上へ」という考え方は、物事を別の角度から見るとマイナスなことでもプラスに考えることができ、自尊心や自信につながるということが印象に残っています。この研修で学んだことを生かして、生徒一人ひとりが仲間を大切に、集団生活をよりよいものにできるように実践していきたいです。

他者の気持ちを理解する

土浦市立大岩田小学校 根本 紀幸



ライオンズクエストプログラムは児童・生徒が他者の気持ちを理解し、自分がどの様に行動すれば良いのか判断する方法の一つとなっています。研修会で体験したことを学級で実践することにより、いつの間にか他者の立場を考えて行動できる子供達が増えていると感じます。これからも他者を尊重し認め合うことのできる学級経営を行うためにライオンズクエストプログラムで学んだことを役立てていきたいと考えています。

会話や笑顔が増える

東海村教育委員会 田中 正彦

今回の研修は、主に若手教諭や講師を対象に実施しました。初対面の先生方も多く、当初は固い雰囲気でしたが、研修を進め、昼食を共にするうちに先生方の会話や笑顔が増えて行きました。参加した先生からは、学級経営や子ども、保護者とのかわりに積極的に取り入れたい、との感想が聞かれました。ぜひ、現場で生かしてほしいと思います。



望ましい学級づくりを目指して

日立市教育委員会 中嶋 由佳

日立市では、「望ましい学級づくりを目指して」をテーマにワークショップをお願いしました。始めはバラバラだった教員集団が次第に笑顔になり、まとまりのある教員集団に変容していく様子を間近で見、目から鱗の感動の2日間でした。受講者の「学級や学年で活用していきたい。」というやる気あふれる声や充実した表情が忘れられません。今後も若手教員を中心に研修を継続し、市内各校での実践を推進していきたいと思っています。



子どもたちに必要な力は何か

那珂市教育委員会 野村 仁



那珂市では、市内の幼稚園・小中学校、教育委員会、ライオンズクラブが連携し、平成28年度より毎年夏に研修会を開催しています。市内から受講者を募り、将来の社会を支える子どもたちに必要な力はどんな力か、そして、そのために学校ができることはどんなことか、実際の教材や手法を体験する中で先生方一人一人に学んでもらっています。受講した教員からは、「日々の学級経営で大切にしなければならないことがよく分かった」「子どもの自尊感情を育むためにすべきことについて、具体事例を挙げて説明してくださった」など、毎年たいへん好評です。今後も教員一人一人のスキルアップを図るとともに、受講者のフォローアップを継続する中で、市内教職員の教育力を高めていきたいと考えています。

グループ活動と振り返り

笠間市立笠間中学校 遠藤 正英

ワークショップ参加後、グループ編成の方法を活用しました。グループをつくるうえでもコミュニケーション活動があり、役割分担もしっかりされているため、グループになったあとの活動をスムーズに行うことができました。また、行事の振り返りで、紙皿に級友のメッセージを書く活動を行いました。体育祭では練習から各々の活動が積極的になりました。その後の振り返りでも、級友への賞賛や感謝の気持ちを直接言葉に表すことで互いに関係が深まったと思います。

ライオンズクエストが高校で科目になる!

常陸太田ライオンズクラブ 西野 一

私は当初、ライオンズクエストは名前しか知らず内容は全く知りませんでした。そんな私のライオンズクエストとの出会いは、後輩県議の水戸南ライオンズクラブの加藤Lからの公開授業へのお誘いからでした。

それは2015年11月11日かすみが浦市立霞ヶ浦中学校での公開授業でした。ロールプレイ形式の授業に先生・生徒ともに楽しく取り組む姿が印象に残りました。終了後、校長先生から経過のお話の後、質疑応答がありました。そこで私は何故この取り組みにしたのかを質問しました。すると校長先生は、統合校への就任の辞令を受け、「この学校での一番の課題であるいじめ防止に最適な教育法はライオンズクエストである」と信じ、開校前から2~3人の先生と準備をし、開校と同時に他の先生方にも教育を受けてもらい現在に至った事を伺いました。数日後、加藤Lの発案で茨城県議会でも関係議員や教育庁の職員を集め認定講師によるミニ研修を受け、このスキルは素晴らしいと確信しました。

意を強くした私は早速、当時の市教育長に相談しました。すぐに当該校に問い合わせをしてくださいました。すると校長先生が偶然にも市教育長の教え子で熱意ある回答があり、市長に報告、翌年の導入を決定して頂き、翌2016年8月の開催がスムーズに決定しました。

2016-2017年度は私がライオンズクラブの会長の年でもあり、2016年8月には那珂ライオンズクラブ開催の研修会をライオンズクエスト担当委員長に受講してもらい、すばらしいとの報告を受け、その年にインターンの学生2人と共に私も受講しました。内容もすばらしく先生方の順応性の高さに驚くと共にその有要性を確信しました。

その後、地元の2つの高校の統合を知り県教育委員会に学校の特色としての導入を提案し調査を約束いただきました。2017年のライオンズクエストの研修に当該校の教頭先生と教育庁管理主事の二人に参加してもらいました。結果、導入の上申がなされ年末に私の一般質問において1~3年生への必須科目としての導入を提言し了解を得ることが出来ました。

2019年4月から太田西山高校が開校します。そしてライフスキル教育の科目としての授業が始まります。まだまだ紆余曲折はあると思いますが、もしかすると日本で数少ない高校でのライオンズクエスト採用の授業となると思います。今後の展開に期待を膨らませています。

※P3~6の各コメントは、2019年3月にご寄稿いただいたものを掲載いたしました。



11年目を迎えた岐阜市でのライオンズクエスト教員研修

岐阜市でのライオンズクエスト普及活動は12年が経過し、市内のライオンズクラブの継続的な支援のもと、岐阜市教育委員会の教員研修として開催されるライオンズクエストのワークショップの開催は11年目を迎えました。小・中学校の2年目教員研修として、毎年の夏休み期間中に開催され、これまでに延べ544名の教員が受講しています。

ワークショップは、岐阜市が挙げる「教科指導や学級経営、生徒指導等に関する実践的指導力の基礎・基本を確実に身に付ける」とした研修目的に合致し、その研修効果を評価いただいています。

10年以上にわたる継続の秘訣は、地域の学校・教育委員会とライオンズクラブとの間の理解と協力の積み重ねによるものだと伺いました。ライオンズクエストの普及活動を通じて、ライオンズクラブが教育機関とパートナーシップを結び、地域の子ども・青少年の教育的な課題に貢献している好例と言えます。

●岐阜市でのワークショップ開催実績

開催年	形態／会場	受講者数			
		小	中	他	計
2007	公募型／揖斐川町で開催されたワークショップへの派遣	1	1	1	3
2008	市内の小・中学校教員2年目研修／岐阜市教育研究所	17	11	3	31
2009		13	16	1	30
2010		13	17		30
2011		16	14	1	31
2012		校内型／市内公立中学校		24	
2013	市内の小・中学校教員2年目研修／岐阜市教育研究所	36	25	1	62
2014		38	19	2	59
2015		36	16	1	53
2016		26	15		41
2017		44	21		65
2018		51	10		61
受講者数 合計		324	205	15	544

(小=小学校教諭、中=中学校教諭、他=高等学校教諭・教育委員会)

参加教員の感想

(ワークショップアンケートより抜粋)

「ライフスキル」といっても社会に出て生活できる力をどうやって身に付けさせていくか、全く無知でしたが、アクティブラーニングやブレインストーミング、その他様々な活動を通して子どもたちに伝えたいことが増え、とても参考になりました。

とても楽しみながら学ばせていただくことができました。グループワークや模擬授業を通して、自分を見つめ直したり、クラスの現状を見つめ直したりすることができました。今回の講座で体験したことや学んだことを取り入れ、活動をする中で、生徒の隠れた魅力や能力を「on」にできる教師でありたいと思いました。

学級活動や授業の様々な場面に応用できる手段を学ぶことができました。生徒たちがより意欲的になって、より質の高い学びができるようになると思います。「生徒の意欲を引き出す教師に自分になっていける」、そんな気がしました。

学校で起こりうる様々な問題に対応した実践や使える対応が多くあり、とても参考になりました。

実際に体験しながら「アクティブラーニング」について学ぶことができ、とても勉強になりました。1人で学んでいては狭い視野での学習になりますが、たくさんの仲間と共に学び合うことで、視野も広がり、自分自身に多くの視点を持つことができました。「学び合い」というのは、学習の質的な高まりに有効であると感じました。学校で実践したいことも多くあり、学び多き2日間でした。

家庭・学校・地域が一体となり子どもたちの健全育成へ貢献

岐阜県(334-B地区)におけるライオンズクエスト(LQ)の取り組みは2007年から本格化し、LQプログラムを岐阜市教育委員会に紹介したことから始まりまし



岐阜金華ライオンズクラブ
早崎 敏

今日までに岐阜市内のライオンズクラブ(LC)の協力によりLQワークショップ開催が継続されてきました。LCの理解とライオンズクラブ国際財団の支援、JIYDの講師派遣などの環境がなければ続かなかったと思います。今では2年目の教員の重要な研修となっていますが、毎回思うことは、研修初日に集まる受講教員の緊張した表情が、研修が終わるときには笑顔になり、学びで得たことが自信に繋がり、表情や言葉がやる気モードになっていて遅く感じます。

受講教員が学級運営等にあたり、子ども達との関わり合いの中で、学ばれたスキルを活用して子ども達一人ひとりに向き合い、自立出来る大人へと導いて頂きますよう期待します。多くの教育プログラムがある中で、LQプログラムが学校教育の目指す方向と多くの点で共通していると認められ、取り入れられたことに感謝いたします。

年々子ども達の環境は困窮をきたしています。更に家庭、学校、地域社会が三位一体となり子ども達の健全育成のために全力を尽くすことが求められています。LCも貢献出来れば嬉しいことです。



子どもたちだけでなく、教員自身の基礎を固める為の研修として

岐阜市教育研究所 学校指導課指導主事 小野木 陽子



岐阜市教育委員会では、岐阜金華ライオンズクラブ様にご支援いただき、「基礎形成期(意欲的に授業実践や学級経営に取り組み、教職の基礎を固める時期)」の教員を対象に「ライオンズクエスト」を行っています。

この研修では、責任感、自己コントロール能力、対人関係能力などのライフスキルを身に付ける方法を楽しく、体験的に学ぶことができます。子どもの立場で受ける研修は実際の授業をイメージしやすく、先生方は「すぐにでも実践してみたい!」と笑顔で学校へ帰っていかれます。また、この研修は、子どもたちだけでなく、教員自身のライフスキルの高まりにもつながっています。プログラムが進むたびに緊張がほぐれ、周りの先生との距離が縮まっていくことを、受講した先生自身が感じています。

未来を担う子どもたちが、笑顔あふれる温かい社会を築いていけるよう、今後も、岐阜金華ライオンズクラブ様とともに、ライオンズクエストを続けていけることを願っております。

幼稚園でも2日間の体験型研修で現場へつなげる

2日間の研修はあっという間で楽しく過ぎました。学んだことをすぐに相手に伝える実践もあり、頭を使いながらより深く課題について学ぶことができました。他の幼稚園や学校の参加者の方とも自然と言葉を交わすことができ、交流を深めることができました。プログラムの中では、ひとりひとりに役割が与えられるので、飽きることなく集中して取り組むことができ、内容の濃い研修となりました。

学校法人まこと学園 事務長 楠 正継

子どもとの対話が増える



研修を受けたことにより、子どもたちに対しての話し方や話しかけ方が変わりました。ひとりひとりの良いところを探ことができ、以前より積極的に子どもと関わるできるようになりました。

また、子どもたちの良さをより掘り下げて理解したり、受けとめたりすることで、子どもとの対話が増え、関係性が良くなったと思います。

以前は課題活動を行う際、全員一斉にやる方法をとっていましたが、子どもたちの意識を注目させてから進めることにより、課題に集中できるようになりました。教材も自由に選べることによって、先生も子どもたちも視野が広がり活動の幅が広がりました。

2・3歳児クラスの子と話をする時に、ペープサートのQちゃん*も利用し、子どもたちが集中して話が聞けるように注意を引かせることができました。

先生も保護者も絆が深まる

研修後は、先生同士、気軽に思っていることや困っていることを話せるようになりました。園で一緒に仕事をしていますが、同じ課題に向き合いアイデアを出し合うことで、今までと違った先生の一面を知ることができました。

また、保護者同士がメインで「母の会」を長年行ってい

ましたが、ライフスキルの考えを取り入れることによって、母親同士の絆が深まり、母親と先生の間でも良い信頼関係を築くことができました。



学園の理念に通じるライフスキル教育



幼児期の教育は人間形成をつくる大切な時期です。自園の建学の精神にも「豊かな人間形成の基礎を培う」とうたっていますが、ライフスキル教育は、学園の理念にも多く通じるものがあります。ライフスキル教育の研修を取り入れるきっかけになったのもそのためです。

また、先生対子どもたちだけでなく、様々な場面に対応していることが素晴らしいところです。学園では、乳幼児も多くいますので、0・1・2歳児でも実践できる内容を取り入れてほしいと思います。ブラッシュアップのため毎年ワークショップを開催して頂けることに感謝し、2019年も楽しみに研修を受けたいと思います。



*Qちゃん | ライオンズクエストプログラムの教材内に登場するくまのぬいぐるみの名前



子どもとの対話による一貫した教育方法

この度はライフスキル教育プログラムのワークショップを開催していただき、ありがとうございました。一つ一つの授業において、「①みつける ②つなげる ③やってみる ④つかってみる」という子どもとの対話による一貫した教育方法は、私たちの保育にも大いに役立つことだと思います。また、その内容においてもロールプレイを通して子どもたちがより深く学べる内容になっていると思います。このような学習の機会を頂きましたライオンズクラブの皆様に心よりお礼申し上げます。

愛和認定こども園 園長 高橋 雅之

ワークショップは自分の考えを伝えやすい

ワークショップは一般的な研修のようなものではなく、職員間で意見を出し合い、普段の保育について考える時間が多くありました。そのため職員間のコミュニケーションが多くなり、自分の考えを伝えやすい雰囲気になりました。

また、保育者や子どもの立場になって取り組むことで、子どもの気持ちがより身近に感じ、他の保育者の子どものかかわりや伝え方などを参考にすることができたと思います。

実践では、ワークショップの実施時期が年度の途中だったこともあり、教材の準備が思うようにできず、取り組むことは難しかったです。

しかし、簡単なゲームなどは取り入れることができました。「手を挙げて注目を集める」といったサインを示す実践などは、取り入れるとすぐに子どもたちの反応が見られました。課題点もあり、このサインを繰り返す保育者の意図が子どもたちに伝わりにくく、工夫が必要だなと感じています。

実践するためには、職員で教材を作り、計画を立て、子どもたちの反応を話し合ったり、情報を共有したりしながら、園独自のものになるようにしていきたいです。

ワークショップのここが良かった!

レクリエーションがあり、コミュニケーションが取れる内容がたくさんあってよかった

グループでの模擬授業では、みんなでアイデアを出し合い、短時間でグループごとの個性や良さが出ていて参考になった

良いところ探しでは、普段伝えられないところを伝えたり、客観的に自分を知りたい機会になった

自己コントロールや他者との関係のコントロールを具体的に知ることができ、ライフスキルを高めることができた。保育の中でも活かしていくことが大切だと感じた

ライオンズクラブ国際協会336-A地区2R3Z
川之江ライオンズクラブ 進藤 裕介

7月14日(土)と10月27日(土)の二日間にかけて学校法人四国音楽学院緑ヶ丘認定こども園及び姉妹園である愛和認定こども園にて職員向けにワークショップを開催しました。

私が緑ヶ丘認定こども園のPTA会長をしていることから、まずセミナーの受講を提案した上、片道切符ではなく後戻りはいつでもできるとお話ししたことが開催のきっかけでした。

セミナー開催が終わったと思った矢先、園の理事長からワークショップの開催の依頼を頂いたのはとても驚きでした。

二日間連続の開催が難しく、ワークショップ自体は一日で終了させたうえで、10月はフォローアップワークショップとして開催することになりました。

7月の一日目は、想像以上に受講された先生方が楽しそうに模擬授業に取り組まれるのを見て、自分もあの輪の中に入って一緒に取り組みたいと思ったのを覚えています。

3か月ほど経過した10月27日は、講師も受講生も7月の内容を振り返りながら思いだし思いだしワークショップを楽しんでいました。

四国で初めての幼保版のワークショップとなり、わが川之江ライオンズクラブにおいても初のライオンズクエストへの取り組みとなりました。

受講生の感想も上々だったようで、ライフスキル教育プログラムを活かした幼児教育が浸透していくお手伝いを定期的に出来ることを願うばかりです。



子どもたちが自分たちの力で!

JYDでは、学校外でライフスキル教育を実践する取り組みを進めています。2018年は「創造力教室」という課外活動を実践しました。放課後、約10名の子どもたちが集まり、ライフスキルを学びます。ただライフスキルを学ぶのではなく、子どもたち自身が活動を通して意見交換しながら学んでいきます。そして、学んだことを形(=モノ)に表しました。大人が教えるのではなく、子どもたち自身によって進んでいく創造力教室は、子どもたちの力に驚くばかりでした。

「安心安全な環境」は集団の基礎



毎回、教室のはじめにちょっとしたゲームを実施しました。どんな活動を行うときも、どんな集団でも、何より大事なのは「安心安全な環境」だと思います。よく知っているメンバーでも、今日のお互いを知り、場をほぐすことで、その後の活動はスムーズ。そして、安心して意見を言える、間違えても大丈夫と思える環境ができました。あるとき、私が用意したゲームをはじめようとすると、違うゲームをやりたいという声があがり、そこから今日やるゲームについて子どもたちが話し合いをはじめました。この話し合いがどうなるか見守っていたところ、複数の選択肢をだして、個々の選択肢のメリットやデメリットを意見交換して、今日は何をやるか次回は何をやるかまで決めていました。全員参加で話し合いができる、結論がだせる、次の提案ができる、これだけのことができる基礎は、何と言っても子どもたちがつくった「安心安全な環境」だと目の当たりにしたときでした。

「全員に役割」がある



毎回必ず全員に役割をもうけました。一回の中で、一度は進行役をやってみる、個々の活動では「司会・時計・発表・記録・コメント」というような係を決め、全員で活動を進めました。全員

に役割があることで、主体的に活動に参加し、互いを尊重しながら協力することを学べました。また、各役割の内容を意識して活動を進めることができました。時計係がいるから、「あと10分で終わらせないと」という意識がうまれたり、発表係がいるから、「ここは発表で言おうよ」という声が聞こえたりしました。さらに、回を重ねるごとに、いろいろな役割をやってみようとする姿、自分の得手不得手を理解して自分で役割を選択する姿、他の人の役割を手伝う姿などがみられました。役割分担をするだけで、こんなに成長するの!とびっくり。役割分担はグループ活動を活発にする重要な要素だと痛感しました。



子どもたちに「任せる」

自信とは何か、居心地のいい場所とはどんなところか、などなどたくさんのライフスキルを学びました。どんなときも、大人が教えることや説明は最小限。あれもこれも説明しなきゃ、教えてあげなきゃ!という衝動をおさえ、子どもたちが知っている知識や活動からの気づきに任せました。どうしても伝えなきゃいけないことはあとで補えばいいやというくらいの思いでいました。あれこれ考えていた大人の心配は無用!子ども



たちは十分にライフスキルについてわかっています。いろいろなことを気付いていました!それについてみんなで話し合ったり、行動に結びつける練習をする機会を与えてあげればいいのかと思いました。自信とは何かを考える回では、「自信って何だと思う?グループで考えてみて」という発問だけで説明は終わり。子どもたちがグループごとにまとめたものには、こちらが伝えようとしたことが十分に含まれていました。次に「自信と自慢の違いって何だと思う?考えてみて」という発問で説明は終わり。これもまた、子どもたちのグループ活動で伝えようと思ったことは十分に網羅されていました。また、後日のふり返りでも、「こないだやったあれね」とよく覚えていました。「先生」という役割の人が「教える」よりも、「仲間」と一緒に「考える」ほうが身につくのだと、改めてわかりました。



「保護者」も巻き込む



2018年の創造力教室は、5回で1シリーズとしました。1シリーズの最後は保護者参観を実施し、保護者の皆さまにも子どもたちが学んできたことや様子を知っていただきました。ただ参観するのではなく、保護者の皆さまも参加し、親子で活動。それまで学んできたことを子どもたちが発表し、学んだライフスキルについて親子で考えました。普段、多くの保護者が子どもと1つのテーマについて考えるチャンスも時間もないですが、1枚の紙を前に1つのテーマについて親子で考える時間がもてるだけでも、創造力教室を開催

してよかったと思いました。子どものことを知る機会は学校関係でよくありますが、親のことを子どもが知る機会はあまりないのではないのでしょうか。親子も人と人です。お互いがある程度知っていることを知ることでお互いを理解することができると思います。親子でちょっと活動するだけで、親も子もさまざまなライフスキルが学べると思いました。



保護者の声

いつも楽しみにしています。動画を見ると、様子が良く分かって、とても嬉しいです。終了時刻が過ぎていても、ちゃんと、役目を最後まで全うしようとするお子さんもおられるようで、素晴らしいことですね!しかも自発的に!自分が小さい頃にも、このような活動があったら良かったのにな、と思いながら、私は見させてもらっています。娘も後になってから、やっておいて、良かったと思う日が来ると思います。子どもの時は、その必要性を、なかなか感じられないのでしょうか。高校説明会にも足を運ぶことがあるのですが、そこでもアクティブラーニング型の授業のことが話題となったり、思考力、判断力、表現力の重要性が唱えられています。なので、小学生のうちに、このような機会を与えて頂いたことを、本当に感謝しています。

発表会では、私も楽しく参加させて頂きました。自信について、親子で考える機会も日常では、今まで、あまりなかったので、良い機会となりました。子どもたちは、人前で発表することにも、だいぶ慣れてきていて、自分の言葉で発言も出来ていて、素晴らしいなと思いました。短期間で、ぐんぐん力を付けていく様がすごいですね!きっと、ここで学んだことが、この先の人生で役に立つことが、沢山あると思います。今はまだ、ピンと来ていない様子の我が子ですが、きっと、あの時、やっておいて良かった!と思う日が来ることでしょう。

今回も興味深く、動画を拝見させて頂きました。確かに輪が段々小さくなって、子ども達が活動に夢中になっている様子を垣間見ることが出来ました。役割分担も積極的に決められていたし、しっかり、役割も果たしていて、成長を感じました。

ライフスキルに参加して、子どもの変化があったかどうか、すごくわかりやすいのは、私に学校のことや自分の気持ちを詳しく話してくれるようになったことです。ライフスキルは私と子どもの財産です!あと、お友達のトラブルを見たときに、「ライフスキルに行けばいいのに」と言っています!



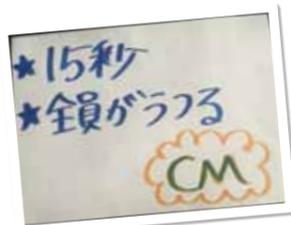
①創造力教室の経験を経て、「ライフスキルのいいところ」という問いに、子どもたちが書き込んだ制作物



「理解して、表現」する

創造力教室のまとめとして、子どもたちに「ライフスキルをおすすめするCM」を作ってもらいました。3.4人のグループにわかれ、準備時間10分程度で15秒のCMづくり。これだけの条件でも、子どもたちが作ったCMは、ライフ

スキルの魅力や中身をしっかりと捉えていました。「チームワーク」をテーマにしたグループもあれば、「自信が身につくこと」を表したグループもあり、「助け合い」や「断り方」を表現したグループもありました。何を感じて何がどのように身についたのか、それは子どもそれぞれですが、経験が子どもたちのものになっていることを確かに感じる事ができました。仲間と協力して、短時間で理解したことを表現することができたのは、これまで自分たちの力で学んできたからこそだと思います。子どもたちの力って本当にすごい!



「多様性」を受け入れる

創造力教室を通して、「多様性を受け入れる」ことがいかに重要かということを知りました。人は一人では生きていけません。家族も学校も、社会はさまざまな集団で成り立っています。集団、つまり人が複数いれば、考え方や感じ方は千差万別です。それは、親子でも。そうした集団の中で、互いの考え方や感じ方、表現方法など、それぞれ同意することもあれば、反対することもあるのは当たり前だと思います。そうした違いに対して、まずは受け入れることができるかどうか、これは集団の中で生きていく上で大事なポイントになるのではないのでしょうか。また、新しい案や代替案を提示できるということも、多様性を受け入れるという点で大事なポイントです。これは、家庭や学校も含め、さまざまな場所でグループ活動を行うことで身につけていくことだと思います。創造力教室に参加してくれた子どもたちは、毎回さまざまなグループ活動を行いました。そういった経験から、今後いろいろな場面で、多様性を受け入れることができる!と確信しています。

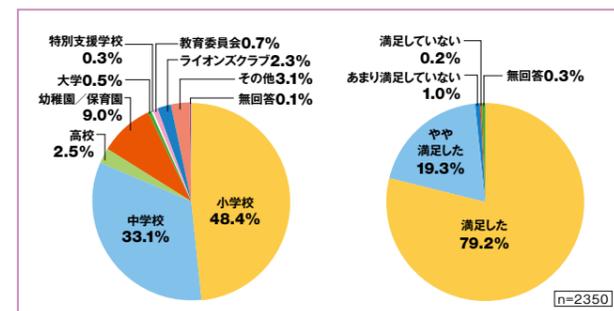
ワークショップは106回開催 校内型での開催が6割

ライオンズクエストプログラムのワークショップは、プログラムの理念や指導方法について、体験的に学習する研修会です。2018年度は、全国各地で、ライオンズクラブの支援により、多くは県・市区町村の教育委員会と連携して、106回開催し、2,389名が参加(修了)しました。

◎2018年度ワークショップ開催ハイライト

- ▶ 開催形態(※)の内訳:公募型40回、校内型66回
- ▶ 修了者の44%が20代、次いで30代(19%)
- ▶ 修了者の48%が小学校教員、33%が中学校教員
- ▶ 修了者の98%が「満足した・やや満足した」と回答

(※「公募型」では参加者を開催地域から募集、「校内型」は特定の学校または校区(1校の中学校と複数の小学校)を対象に開催)



学校現場のニーズに対応した開催

2016年10月より試行している「1日」で完結する開催形態を含め、今年度も学校現場のニーズに対応した様々な形態での開催に取り組みました。

形式	内容
2日間(連続)	従来の標準的な形式
2日間(スプリット)	1日目と2日目を離れた(概ね1週間から数ヵ月)形式
1日(ワンデー)	1日に短縮した形式(試行中)
大学授業	京都教育大学で実施している「ライフスキル教育授業」

幼稚園・保育園での ワークショップ開催



2017年7月の「幼稚園／保育所(園)版」教材の導入により、保育園・幼稚園でのワークショップ開催が増えました。

2018年度は6件の園内型ワークショップが実現しました。参加された保育園、幼稚園の先生からは「園に持ち帰れる導入が多く、普段の保育に活かしていきたい。」「ワークショップをすることでより具体的に理解し、保育に生かされると実感できた。」といった声が寄せられました。幼児教育現場での開催が今後期待されています。

課外活動「創造力教室」の実施



子どもたちの放課後の時間を利用し、子どもたちが主体的に学ぶ活動の場を設けた、課外活動「創造力教室」を実施しました。

詳しい実施内容はこれ以前のページにて「創造力教室の取り組み」として掲載しています。ぜひあわせてご一読ください。

フォローアップ校内研修の開催

実践校やモデル校を対象とし、プログラムの導入支援、授業実施の強化を目的として、半日から1日間の日程で、今年度は12回開催しました。

教師による実際の授業実施を観察し講評を行う内容やワークショップ形式による模擬授業の体験など、学校の要望に合わせて実施しました。

日本財団「子どもの貧困対策プロジェクト」への参加

日本財団が実施する「子どもの貧困対策プロジェクト」で設置される「第三の居場所」へライフスキル教育プログラムを導入する取り組みを2017年10月より進めています。

今年度も、居場所へライフスキル教育プログラムを導入する為のスタッフへの研修や導入後の実施支援を行いました。初年度は2つの居場所でパイロット実施を進めてきましたが、今年度は居場所拡大のため、3つの居場所にて実施しました。

日本財団「子どもの貧困対策プロジェクト」ウェブサイト：
https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/ending_child_poverty/

書籍出版「認定講師 柴咲子のライフスキル授業早わかりマップ」

ライオンズクエストプログラムに収録されているすべての授業の概要を掲載した書籍を2018年7月に出版しました。

発達段階や系統的に組まれた授業のつながりがわかるようにまとめられています。目的やニーズにあわせた活用方法も紹介し、実践者にはうれしい1冊となっています。



説明員研修会/地区関係者勉強会の開催



2018年10月21日(土)、東京都中央区で、ライオンズクエストプログラム説明員を主な対象とした研修会・勉強会を開催しました。アクティブラーニングで行われるワークショップを体験し、地域・学校の課題に合わせた普及活動の展開について考え、実践的なワークショップ形式の研修を行いました。また、昨年と同様に、各地区のライオンズクエスト関係者にもご参加いただき、説明員といっしょに普及活動について考える機会として「地区関係者勉強会」を併せて開催しました。

ライオンズクエスト説明員は全国に67名

ライオンズクエスト説明員は、ライオンズクラブの推薦を受けたライオンズメンバーなどで、JIYDの講習を受けてプログラムの説明・模擬授業を含めたセミナーを実施できるようになった方です。

地域の学校や教育委員会を訪問して説明やセミナーを開催したり、ライオンズクラブの例会や会合でプログラムを紹介する活動をしています。2018年は1名の説明員を養成しました。

貸借対照表 2018年12月31日現在

科目	当期分	前期分	差異
Ⅰ資産の部			
【流動資産】			
現金・預金			
一般口	1,454,526	3,017,268	△ 1,562,742
立替資金口 ※1	24,378,367	20,472,227	3,906,140
貯蔵品	4,909,250	5,050,326	△ 141,076
前払費用	855,719	854,915	804
立替金	0	0	0
未収入金	23,111,250	39,736,454	△ 16,625,204
流動資産合計	54,709,112	69,131,190	△ 14,422,078
【固定資産】			
什器備品	3	4	△ 1
敷金	300,000	300,000	0
ライフスキル教育普及事業積立預金 ※2	17,000,000	7,000,000	10,000,000
固定資産合計	17,300,003	7,300,004	9,999,999
資産の部 合計	72,009,115	76,431,194	△ 4,422,079
Ⅱ負債の部			
【流動負債】			
未払金	1,734,612	1,894,007	△ 159,395
前受金	1,162,409	1,912,000	△ 749,591
預り金	141,815	197,026	△ 55,211
未払消費税	332,600	344,700	△ 12,100
流動負債合計	3,371,436	4,347,733	△ 976,297
Ⅲ正味財産の部			
前期繰越正味財産額	72,083,461	73,538,126	△ 1,454,665
当期正味財産増減額	△ 3,445,782	△ 1,454,665	△ 1,991,117
正味財産の部 合計	68,637,679	72,083,461	△ 3,445,782
負債及び正味財産の部 合計	72,009,115	76,431,194	△ 4,422,079

※1. ライフスキル事業の運転資金です。

※2. ライフスキル事業に於ける中・長期積立金で、教材開発など予測される付随事業への充当、および長期に渡る活動の維持を目的としています。



活動計算書 (2018年1月1日から 2018年12月31日まで)

(単位:円)

科目	当期分	前期末	差異
I 経常収益			
【受取会費】			
正会員受取会費			
個人	300,000	340,000	△ 40,000
法人	0	0	0
受取会費計	300,000	340,000	△ 40,000
【受取寄付金】			
使途指定寄付金	95,000	100,000	△ 5,000
一般寄付金	70,000	73,300	△ 3,300
受取寄付金計	165,000	173,300	△ 8,300
【受取助成金-ライフスキル教育普及事業】※1			
ライオンズクラブ国際財団	45,731,084	51,689,256	△ 5,958,172
その他	2,392,713	2,951,363	△ 558,650
受取助成金-ライフスキル教育普及事業計	48,123,797	54,640,619	△ 6,516,822
【事業収益-ライフスキル教育普及事業】			
ワークショップ参加費収益	8,858,000	9,999,000	△ 1,141,000
日本財団	3,474,138	0	3,474,138
その他体験会謝礼等	1,600,564	2,345,149	△ 744,585
事業収益-ライフスキル教育普及事業計	13,932,702	12,344,149	1,588,553
【その他収益】			
受取利息	1,034	996	38
雑収入			
ワークショップキャンセル料	85,000	63,000	22,000
書籍売上	280,800	359,900	△ 79,100
その他	1,500	83,683	△ 82,183
その他収益計	368,334	507,579	△ 57,062
経常収益計	62,889,833	68,005,647	△ 5,033,631
II 経常費用			
【事業費】			
(1)人件費			
給料手当	11,458,131	14,085,479	△ 2,627,348
法定福利費	1,238,285	1,622,015	△ 383,730
通勤費	497,562	660,018	△ 162,456
人件費計	13,193,978	16,367,512	△ 3,173,534
(2)その他経費			
謝金 ※2	14,149,483	14,477,193	△ 327,710
通信費	429,158	320,645	108,513
荷造運賃	1,894,016	2,757,046	△ 863,030
旅費交通費	8,609,072	7,530,228	1,078,844
WS昼食代 ※3	0	42,000	△ 42,000
消耗品費	405,807	373,349	32,458
会場費	330,196	367,180	△ 36,984
家賃	1,296,000	1,296,000	0
リース料	411,072	419,472	△ 8,400
支払手数料	162,542	112,648	49,894

科目	当期分	前期末	差異
印刷費 ※4	14,550,074	14,706,820	△ 156,746
ライセンス料 ※5	1,513,945	1,479,925	34,020
外注費	367,712	302,607	65,105
その他 ※6	373,853	355,705	18,148
その他経費計	44,492,930	44,540,818	△ 47,888
事業費計	57,686,908	60,908,330	△ 3,221,422
【管理費】			
(1)人件費			
給料手当	3,470,556	3,520,557	△ 50,001
法定福利費	1,128,802	1,122,761	6,041
通勤費	232,830	236,730	△ 3,900
人件費計	4,832,188	4,880,048	△ 47,860
(2)その他経費			
支払報酬 ※7	256,000	248,711	7,289
通信費	260,976	281,508	△ 20,532
荷造運賃	50,253	59,670	△ 9,417
水道光熱費	129,967	129,493	474
旅費交通費	412,300	263,645	148,655
消耗品費	67,268	123,505	△ 56,237
会場費	111,120	100,320	10,800
家賃	1,296,000	1,296,000	0
租税公課	332,776	346,861	△ 14,085
リース料	411,072	419,472	△ 8,400
支払手数料	183,610	51,584	132,026
印刷費	3,550	27,160	△ 23,610
減価償却費	0	31,407	△ 31,407
その他 ※8	281,626	284,598	△ 2,972
その他経費計	3,796,518	3,663,934	132,584
管理費計	8,628,706	8,543,982	84,724
経常費用計	66,315,614	69,452,312	△ 3,136,698
当期経常増減額	△ 3,425,781	△ 1,446,665	△ 1,979,116
III 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
IV 経常外費用			
固定資産除去損	1	0	1
寄付金 ※9	20,000	0	20,000
特別損失	0	8,000	△ 8,000
経常外費用計	20,001	8,000	12,001
当期正味財産増減額	△ 3,445,782	△ 1,454,665	△ 1,991,117
前期繰越正味財産額	72,083,461	73,538,126	△ 1,454,665
次期繰越正味財産額	68,637,679	72,083,461	△ 3,445,782

※1「受取助成金-ライフスキル教育普及事業」の細目として、ライオンズクラブ国際財団のライオンズクエスト交付金事業に関する受取助成金は「ライオンズクラブ国際財団」、それ以外の事業に関する受取助成金については「その他」と表記しています。 ※2、ライオンズクエスト認定講師、ワークショップのアンケート集計に対する謝金です。 ※3、ワークショップの講師昼食代です。 ※4、教材、書籍、パンフレット、年次報告書、名刺等の印刷費です。 ※5、ライオンズクラブ国際財団(LCIF)に対するライオンズクエスト、ライフスキル教育プログラムのライセンス料です。 ※6、会議費、修繕費、雑費が含まれます。 ※7、会計監査報酬、労務課手続報酬、総会講演会謝金です。 ※8、会議費、保険料、諸会費、修繕費、雑費が含まれます。 ※9、ライオンズクラブ国際協会336-B地区、336-C地区に対する災害寄附金です。

事業費の内訳

ライフスキル教育事業には、ワークショップの開催、セミナーの開催、教材開発・改訂事業、認定講師養成事業、評価事業等が含まれます。

広報事業には、年報の発行、ホームページの運営・管理が含まれます。

	ライフスキル教育事業	広報事業計	事業費計
(1)人件費			
給料手当	11,218,131	240,000	11,458,131
法定福利費	1,238,285	0	1,238,285
通勤費	497,562	0	497,562
人件費計	12,953,978	240,000	13,193,978
(2)その他経費			
謝金	14,149,483	0	14,149,483
通信費	420,026	9,132	429,158
荷造運賃	1,861,382	32,634	1,894,016
旅費交通費	8,609,072	0	8,609,072
WS昼食代	0	0	0
消耗品費	405,807	0	405,807
会場費	330,196	0	330,196
家賃	1,296,000	0	1,296,000
リース料	411,072	0	411,072
支払手数料	162,542	0	162,542
印刷費	14,465,844	84,230	14,550,074
ライセンス料	1,513,945	0	1,513,945
外注費	242,212	125,500	367,712
その他	373,853	0	373,853
その他経費計	44,241,434	251,496	44,492,930
合計	57,195,412	491,496	57,686,908

監査報告書



2019年度のライフスキル教育普及活動では、以下の5点に注力します。

1 地域・学校の課題・ニーズに合わせた普及活動のすすめ

地域や学校では、その地域の子ども・青少年に関わる課題・ニーズに対して様々な取り組みをしています(例:明るい意欲的な学級づくり、子どものコミュニケーションの能力の向上、地域との連携強化など)。そうした様々な教育活動の一環として、「ライフスキル教育」を取り入れていくことを提案し、支援していきます。また、教員や青少年指導者を対象とするワークショップ(研修会)では、対象地域・参加者の要望(課題・ニーズ)に合わせた内容での実施を志向し、参加者の目的意識・参加意欲を高め、受講後の実践につなげていきます。

2 1日ワークショップの導入と開催形式の再編

2016年10月より試行してきたライオンズクエストプログラムの「1日(ワンデー)ワークショップ」を正式に導入します(2019年7月から)。また、1日形式を基準単位として位置付け、全体の研修形式を再編します。

形式	日数	内容
基本編	1日	プログラムを実践する上で受講必須の研修
実践編	1日	「基本編」の修了者を対象にスキルアップを目的とした研修(従来の公募型フォローアップ・ワークショップに替わる研修)
基本編+実践編	2日	「基本編」と「実践編」を一緒に開催する研修(従来の2日間ワークショップと同等の研修)

3 教材の開発・改訂と電子化

2015年にアメリカで導入された新しいライオンズクエストプログラムの教材(アメリカ・英語版)の日本語版開発を進め、それに合わせて教材を電子化し、2019年7月から導入します。



4 認定講師の増員

ワークショップの開催時期が夏休み期間中に集中することや開催形式の多様化(形式の再編、課題・ニーズに合わせた内容、対象の拡大)などを見据えて、認定講師の増員を進めます。

5 学校外への「ライフスキル教育」導入の試行

学校外の青少年活動の場への普及の試行を進めます。2017年10月よりスタートした日本財団「子どもの貧困対策プロジェクト」での「第三の居場所」へのライフスキル教育プログラム導入プロジェクトはその一環です。

2018年度会員 (2018年12月末日現在)

○個人:49名

石原 典子 大島 賢三 西園寺 裕夫 島田 佳宣
田上 敬子 田川 薫 成瀬 健生 西木 宣雄
降矢 千秋 武藤 博昭 百田 勝彦 山田 礼子

※上記の会員、並びに寄付者の法人名・個人名は、掲載をご承諾頂いた方のみ掲載しています。(敬称略、五十音順)

2018年度寄付者 (2018年12月末日現在)

○法人・団体

トヨタエルアンドエフ東京株式会社

○個人:6名

理事会 (2019年4月1日現在)

理事長 野村 彰男 公益財団法人日本国際連合協会 理事
公益財団法人人権教育啓発推進センター 評議員

理事 中雄 政幸 特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム ファウンダー(前事務局長、L.)
栗田 収司 元日本ビクター株式会社 取締役
西田 浩子 公益財団法人かめのり財団 理事・事務局長
佐渡 涼子 ライオンズクエスト認定上級講師
北山 敏和 ライオンズクエスト認定講師
教育学/健康教育学講師

足達 靖彦 ライオンズクラブ国際協会335-C地区 名誉顧問・元地区ガバナー
ライオンズクラブ国際協会335複合地区 ライオンズクエスト委員長
学校法人明珠学園理事、京都翔英高等学校副校長

馬淵 英晃 特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム 事務局長兼務
ライオンズクエスト カントリーディレクター

名誉理事 守随 武雄 パナソニック株式会社 客員
藤本 厚子 元幼稚園教諭

監事 山本 和夫 東京ライオンズクラブ所属 公認会計士

(L. =ライオンズメンバー) (就任時期順)

ライオンズクエスト認定講師 (2019年10月1日現在)

岡松 佐知子 北山 敏和☆ 佐渡 涼子*☆ 篠田 康人 柴 咲子
寺本 之人 外川 澄子 中村 千恵子 原田 達明

(* =認定上級講師、☆ =青少年育成支援フォーラム理事 五十音順)

講師プロフィール等は、Lions Questライフスキル教育プログラムのホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
<http://lionsquest-japan.org>



皆様のご理解・ご支援をいただきながら、事業パートナーと協同して、「ライフスキル教育」の普及に取り組んでいます。

